

まさゆき新聞

M A S A Y U K I

S H I N B U N

編集・発行：まさゆき倶楽部事務局

まさゆき倶楽部事務局 東興華空間 目黒区柿の木坂3-3-1 TEL03-3414-7562 FAX03-3410-5130

食欲、文化の秋到来、皆様
 いかがお過ごしでしょうか。
 今年は五月にドイツのライゼ
 ンズブルグ、八月に韓国のソ
 ウル、九月にドイツのケルン
 とベルリン、そしてスコット
 ランドのダンフリーズと海外
 での演奏会も多く、忙しく過
 ごしておりました。

その時の記事もたくさん寄
 稿して頂いていますので楽し
 みにお読み頂きたいと思いま
 す。

(10112009 ロンドンより)

木野雅之

ダンフリーズの

音楽祭に参加して

木野と演奏するようになって、
 早いものでもう二十四年になる。

この間共演しなかった年は無いよ
 うに思う。振り返れば随分たくさ
 んの曲を弾いてきたものだ。私自
 身、たくさんの演奏家と共演して
 きたが、木野との演奏が最も自由
 を感じ、楽しんでる。また、彼
 に鍛えられてきた面もたくさんあ
 ると思う。今までいろんなところ
 で共演してきたが、今回のスコ
 ットランドのダンフリーズでの演

奏は、初めての海外での共演とな
 った。私自身海外は久しぶりで、
 なんと二十年ぶりくらいに渡航だ。
 パスポートを取得したり航空券を
 手配したりと、慣れないことの連
 続で、しかもトラブル無く目的の地
 までたどり着けるか不安な気持ち



もあつた。しかし、そんなちよつ
 とした緊張感も旅の楽しみのひと
 つと思つたものの、ロンドンで木
 野と合流した時は何一つトラブル
 もなくて、拍子抜けしたくらいだ
 った。あくる日、彼とエディンバ

ラへ向かい、彼のファンクラブの
 ツアーと合流。コンサートまで一
 緒に旅を楽しんだ。いろんな方と
 の出会いがあり、また素晴らしい
 景色を堪能し、とても有意義なツ
 アーだった。

音楽祭ではいろんな楽器奏者が
 出演し、とても楽しい充実したコ
 ンサートとなった。木野の娘、杏
 奈ちゃんとも初めての対面となつ
 た。生まれた時の彼の喜びあふれ
 る絵葉書を憶えているし、彼との
 話題にもよく出てくるので、今ま
 で会つたことが無いのが不思議な
 くらいだった。親子の演奏も聴け
 て、また木野の親としての顔も初
 めて見る事ができた。これから
 も親子そろつての活躍が楽しみな
 ところ。

いつも感じるのだが、木野は
 音楽家に対してもそれ以外の人に
 対しても、また日本人に対しても
 外国人に対しても、いつも変わる
 ことがない。これは多様な国、人
 との新しい出会いを常に繰り返し
 ているうちに自然に身につけてき
 たことだと思うが、これもゆるぎ
 ない「自分」を築く上で彼にとつ
 て大きなプラスになっていると思
 う。彼との演奏に、とても安心感
 があるのはそんなこともあるのか

な、と今回の旅で感じることができた。(ピアニスト吉山 輝)

いくつになっても 素敵な出会い

♪ただ一面にたちこめて牧場の朝の♪.....ひつじの群れ。

この風景を車窓から毎朝眺め一日の旅がはじまりました。

旅行中おだやかな良い天候に恵まれゆったりとした羊の群が心をなごませてくれました。このようにずっと天候が良い事はめずらしいとか。旅のコーディネートターの石原さんはマダムソレイユです。

旅はスコットランドからインゲランドのロンドンまでの縦断でした。印象に残ったすばらしい所は目に焼きついておりますが、今回の旅のテーマは「ダンフリース音楽祭へのお誘い」。音楽祭をプロデュースし盛り上げて下さった雅

之さんはじめ世界で活躍する音楽家とごいっしょに旅ができるなんて夢のような話が現実でした。

ダンフリースのアラントンハウスでは城主の内間さんご家族の歓迎を受け、楽しい歓迎会をして下さいました。

その中で突然、雅之さんや吉山さんの演奏会がヤンヤヤンヤと始



まり内間さんのお嬢さんのグループの演奏もおしゃれでした。

そういえば誰かがマジックをはじめたので、たねあかしに皆の目はくぎづけ。なんてこともありました。

お料理も美味しく、心のこもった内間さんご一家には深くお礼申

し上げます。

ダンフリース二日目は市庁舎の歓迎を受けまたまた市の方々の手作り昼食をいただき市庁舎の中を見学。議場の議長席には雅之さん、吉山さん、杏奈ちゃん(雅之さんのお嬢さん)がふざけて楽しげに座り、得意げな表情をしていました。

夜いよいよ「グローバルピースコンサート」ホテル近くの体育館が会場。日頃は、バスケットコートになつている広い館内。ここを短い時間で客席を作り、舞台を作り、世界中の人々があふれていました。ここで私の主人はお客さん(恵以子さん)を紹介していました。

His mother とか言っちゃつて二(笑)。お客さんも喜んでお母さんに握手を求めて来ていました。演奏会は雅之さんのダイナミック(身体だけではありません)。な演奏と吉山さんの味のあるピアノ、クラリネットの杏奈ちゃん(小柄ながらよく指も動きとても音楽的)藤色がかかったピンクのドレスもとても可愛かったです。

太鼓、ドラムの広田さんは力強い演奏と笛のような歌声そしておだやかな人柄で味のある方でした。シンガーソングライターの内間さ

んのお嬢さん(クララさん)の作った弾き語りアンサンブルも楽しい曲でした。(下記のような感じでした)

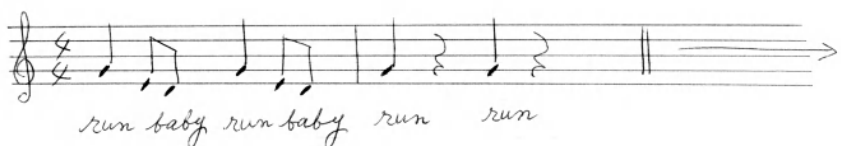
訳すと“走れ赤ん坊”だそうで笑ってしまいました。(恋人への呼びかけだったかしら)ご本人にもっと深く訳してもらうんだったわ。

このくだりはお客さんも含めて会場全員がクララさんの合図で斉唱。クララさんの声もスコットランドの爽やかな風のようにでした。

味 味 あじ あじと言いますが、味のある音楽家ばかりで演奏にも人となりが見え、その方々の個性がキラリと光る演奏会でした。

今回の旅では、ごいっしょした参加者の皆様とも深く交流が出来てお互い気心が知れました。

皆様好奇心旺盛で情熱をもった方々の集まりでした。旅の間中ほとんど食事がついていたので皆様と語り合える時間も沢山あって仲



良くなれて嬉しかったです。ほんとうにありがとうございました。人々との出会い、音楽との出会い、そしてガイドブックにあまり出てこないすばらしいダンフリースやエルガーの生家なども組み込んで頂き嬉しい旅でした。

木野さんご一家、石原さんはじめ皆様に感謝の一言です。

(まさゆき倶楽部会員 小倉睦子)

スコットランド旅行記

久しぶりの海外旅行であり多少の失敗談もありましたが、「まさゆき倶楽部」の良きメンバーと、天候にも行程中ずつと恵まれ、超楽しい旅行でした。木野さん曰く、「僕は「晴れ男」だから、天気は大丈夫さ！」の言葉通り全くの好天気が続き、木野さん達と別れた以降も「利益が継続した模様。2日目のエディンバラから北に向かってインバネス、ネス湖から南下してグラスゴー、そして7日目のダンフリースまで、木野さんとピアニストの吉山さんが我等のツアーに合流し行動をとりました。更にダンフリースでは杏奈ちゃんも参加し、素晴らしく多様化した「Global Peace Concert」を鑑賞出来ました。この音楽祭を企画した内間さん家族が住んでいる「アラ

ントン・ハウス(大邸宅)」でのアットホームな交歓会や、「蛍の光」の作詞者ロバート・バーンズが暮した「エリスランド・ファーム」等での即興生演奏もあり、大いに盛り上がり堪能しました。

今回の旅行の中で特に印象に残っ



た事を二三挙げると、① グラスゴーのセルテック・ショップ前でコーヒを飲んでいたら、日本人留学生(旧セルテック中村俊輔のユニフォーム姿)の家族に不意に声をかけられ、彼曰く「こんな所で日本人に出会うなん

て！」と言われ、こちらも感激！また通りかかったスコットランド人が「オ、ナカムラ！」と言って彼に握手を求めていたのが印象的であった。② エディンバラで2階建ての路線バスに乗ったら、全くの偶然にも日本語を話せる青年と隣り合わせになった。③ 湖水地方のウインダムアで乗ったタクシーの運転手が数年前日本に行った事があり、日本のことを「Fantastic」と評価され、嬉しく思っ

た。

明治時代の岩倉使節団や夏目漱石らが見た風景と同じと思われる、果てしなく牧草地が続く中で所々に羊や牛が散見される、あるがままの風景の中で悠久の時刻を過ごした気分で大いにリフレッシュとなった。帰国後も英国に関する本を探し求め、未だに感傷に浸っている今日此頃です。是非もう一度行ければと祈念しつつ。

(まさゆき倶楽部会員 東貴雄・英子)

9月のスコットランド

音楽好き、旅好きの私達、総勢19人の旅は古都エディンバラから始まった。

9月半ばのスコットランド、空は暗鬱に雲が低くたれ込め、時折小雨まじ

りの冷たい風も吹くであろう。ところがです。

翌日、空は青く暖かく穏やかな朝私達は元気よくエディンバラ城目ざして見物に出発した。そしてこれからの13日間、この好天を引き連れて旅



を続けることとなったのです。列車で到着した雅之さんとピアニストの吉山輝さんも同行してのバスの旅。折しも女王陛下もこちらにご滞在。スコットランドの女王でもあられる女王は、夏の3ヶ月はバルモラル宮殿で過ごされる由。そうじゃないと誇り

高いスコットランド人に不評を買うからね。空に突きささる教会の尖塔、高台にそびえるエディンバラ城のみならず、旧市街はさながら古城の展示場。あ、このすてきなお城は？と思えばそれはブレア英前首相が学んだ。パブリックスクール。ハリーポッターの魔法学校が現実にある！

私達はそれから一旦、ほぼ最北のインバネスへと向い、そこからネス湖やロソホローモンドに沿って再びハイランドをゆつくり南へと下る。ネス湖にネツシーの影さえ見えず、ローモンドの湖面も静まり返っていた。

英国には高い山はなく、日本人の感覚からするとせいぜいが丘である。ハイランドに連なる丘陵は岩とヒースに覆われ、時折陽が当たるとヒースは赤紫色に輝き、それは何か心休まるというのではなく、荒々しい不思議に心騒がせる美しさなのだった。車窓から時折、丘のてっぺんに針葉樹の疎林を見る。昔ドイツからやって来た国王が故郷を懐かしみ植えさせたという。ガイドのまなみさんによると、これがスコットランド人には大層不評なんだと。想像してほしい。

つるつるの夫を持った奥さんが、ある朝目覚めると、隣でむっくり起き上がった亭主にふさふさ生えている髪の毛。バスの中はもう笑いの渦。

ハイランドに緑の木は似合わない。まなみさんは豊富な知識とユーモアと、そしてスコットランドへの愛に満ちた、すてきなガイドさんです。「イギリスはまずい」。これは乏しい経験から

生まれ私の頭に消し去りがたくすり込まれた先入観であります。

最初の朝、さしたる期待もなく朝食に下りてゆき、豊富に並んだ料理の中から、ごろんとした、いためたマッシュルーム、トマト、玉子などとり分ける。すると若いウエ

イターがにっこりと「これはお薦めですよ、元気が出ます」と指したのが、何やらまつ黒のセンベーター状のもの。備長炭を薄く輪切りにしたようにも見



える。これは、ブラッドプディングといい、豚の血と、パン粉大麦カラス麦などと、羊の脂、牛乳をよく混ぜ合わせ、しかる後ゆでたものをよく冷やし云々という、どうやらスコットランド

自慢の食べ物。のようであった。わるくないですよ、これは。

つまり、朝食はおいしかった。しかし、ヨーロッパのしみつたれたコンチネンタルブレックファアストと比べて、朝御飯だけは、英国はそのたつぷり加減でも有名だからね。まだ信用するのは早い。と疑り深い私。

後、昼食も夕食も、また次の日も次の日も私達はおいしい食事を満喫したのです。これはどうしたことか。

イギリスは改心したのか？ はい、

私にはそのように思えます。

けれど、それ以上に、かくも料理のおいしい、よいホテルやレストランを選んでくれたツアーコンダクターの石原淳子さん、汲めども尽きぬ知識と経験に基づいて計画をたて、極寒のさなか下見をし、私達を楽しく安全に心配ってくれた彼女なしには、こんなおいしい食事は望めなかつたでしょう。

スコットランドでは道路は直線ではない。刈り取られた干草のロールが点在する茶色い干草畑、低く積まれた石垣が起伏する丘を区切り羊が草を食む緑の牧草地の間をうねりながら、道はどうとう、イングランドとのボーダーに近い町ダンフリーズに着く。ここが私達の旅のハイライト、ダンフリーズ&ギャロウェイ音楽祭の催される、スコットランド南西部の運河沿いの町。町の中心をはずれるとすぐに緑豊かな田園地帯が広がる。

私はちつとも知らなかつたのだけど、ここはスコットランドの国民的詩人ロバート・バーンズを生んだ場所、彼が「蛍の光」を書いた農場は記念館になっている。古びた机や窓ごしに見える納屋などバーンズの時代を彷彿とさせる。また近くには、日本人なら誰もが愛唱したアニーローリーが晩年を過ごした家があって、今は大層美

しいホテルになっている。そんな所だとは知らなかったな。

そこから野原や牧草地を越えて行くくと、その一角にあるアラントンハウスはビクトリア時代の古い貴族の館。2万4千坪の広大な敷地の中にあり、長く打ち捨てられていたが、10年前より修復が始まった。オーナーとしてそのプロジェクトに携わっておられるのが「うまささん」内間天馬さんと「うまおくさん」のキャロラインさん。このお二人がいれば、今回の私達の旅の生みの親ともいえる。

音楽祭のプロデューサーであり、雅之さんや関西のピアニスト吉山輝さんの大親友飲み友達であるうまささんは、旅の名アドバイザーでもあった。ちなみに、前に書いたガイドのまなみさんは、キャロラインさんの弟さんの奥さんである由。

木々の生い茂る小道を抜けると、一転緑の芝生が広がり、アラントンハウスは少しも威圧感のない美しい姿で立っていた。

うまささんはひょうり飄々と、（しかし内なる熱い心の持主とすぐに知れる）うまおくさんは美しく暖かい笑顔で迎えてくれた。

そしてここに香奈さん登場。いわずと知れた雅之さんの愛嬢。在英、新進

気鋭のクラリネット奏者です。父と娘、木野恵以子さんと孫娘、三代の交歓はほんとに幸せいっぱい微笑ましい。この夜アラントンハウスで催された「ダイナー」とそれに引き続いた音楽の夕べほど楽しく、豊かなものは滅多



にない。特筆すべきは、ハギスが供されたこと。例のロバート・バーンズはハギスを讃える有名な詩を書いて、食する前、主人は正装つまりキルトに威儀を正し、何やら呪文だか祈りだかを唱えるのだった。ハギスとは、

羊の胃袋に細切れの羊の内臓やら大妻やらをつめてゆでる、という風な食べ物です。

そしていよいよ音楽の愉しみ。明日に備えてこの館に集う音楽家たち、日本から、ロンドンから、そして地元スコットランドからの様々な演奏家のサロンコンサートなんと贅沢なひとときだったろう。太鼓と尺八、ハープとケルトの歌、うまささんの愛嬢クララさんの歌とバンド。香奈さんはクラリネット、吉山さんはピアノ、そして雅之さんのヴァイオリン。楽し気に奏でる演奏家の息づかいを間近に感じながら聴く音楽は、たとえ音響が完璧でなくとも、大ホールでの音楽会やCDとはまた違った感動をじかに手渡し



てくれた。

グローバル・ピースコンサート当日。日英同盟100周年、国連の世界平和デーそしてダンフリーズ&ギャロウエイズ市民の多様性週間等々、いくつもの願いをこめて催される2回目のコ

ンサート。うまささんとうまおくさんは先頭に立って引っぱっている。

コンサート前の早めの夕食は雅之さんお薦めの中華料理店で。なんと壁には墨痕鮮やかに「木野雅之」の四文字。熱烈な雅之ファンである女主人の

揮毫によるもの。遠いダンフリーズの地にも、こんな雅之ファンがいる。

町の人々が三々五々、老若男女集まって来てコンサートが始まった。幕開けは日本の太鼓一座。ざわめきを一変させる太鼓の響き。それから繰り広げられた音楽の饗宴。一週間も共に旅をして、新しい存在となった吉山

輝さんの華麗で情熱的なシヨパンとフオーレに私達はもう身をのり出して夢中。雅之さんはチゴイネルワイゼンと超絶技巧のラ・カンパネラ。熱い熱い演奏。

そして、杏奈さんの一本のクラリネットから紡ぎ出された美しい響き。ハンガリーの作曲家コバーチの無伴奏曲。小柄であどけない杏奈さんが、広い舞台空間をひとりしっかと支えている。私達の愛する芸術家たちの才能の力をひしひし感じたのだった。

コンサートは地元ダンフリーズのテナー歌手ニッキーの芸達者で圧倒的な歌唱もあり、会場は大喜びの一体感に包まれ、「蛍の光」の大合唱で終わった。

外はすっかり夜も更けて、空気は冷え冷えしていた。でも私達は、いい音楽と、コンサートを成功に導いた人々の熱意に身も心も暖められて、ホテルへと通りを渡ったのだった。

(まさゆき倶楽部会員 海津 富貴子)

スウェットバンドの旅

会社勤めを退職して55年、もっぱら海外旅行を楽しむよい身分を満喫しています。例年2〜3回多い年は、回も旅行に出ているでしょうか。今年の旅の一つにビッグホリデーのお世話で

ダンフリーズ音楽祭をメインにイギリスの縦断旅行を楽しみました。木野雅之さんの音楽旅行は2回目ですが、20名ご一緒の方もおられました。20名のメンバーは二日目には前々からの



知り合いであったかのように終始和気あいあい、冗談が乱れ飛ぶ笑いの旅行でした。

成田からロンドンへ、国内線に乗り継いでエディンバラ・それから最後までバスでの移動でインパネス・グラスゴー・ダンフリーズ・ウインダムニア・チェスター・アポンエイボン・ロンドン・という行程でしたが、退屈するこ

となく、旅行中のすべての食事の美味しかったことが大きな印象です。というのはいギリスの食事はまずいとの先入観を持っておりました。

今回は音楽の鑑賞が主目的の旅ではあったのですが、行くことと思ってもなかなか行く決心がつかない場所を旅行会社が選んでくださって大変良かったです。

スコットランドの北方に在するネス湖見物が入ったこととです。幻の未確認動物通称「ネッシー」が住んでいるというネス湖の伝説は、遠い日本では話には訊きますが現場に一度は行ってみたいと思っております。ものもの本で調べますとスコットランド北部のハイランド地方にあるイギリス最大の淡水湖で長さ35 Km、幅2 Km、水深最大23 m、面積56平方キロ、ラムサール条約登録地とありました。さて問題の「ネッシー」の正体は諸説ふんぷん「巨大うなぎ」「あざらし」「巨大みみず」「恐竜の生き残り」などなど

の話があるそうですが全てが謎の世界であることの方がロマンを感じま

す。スコットランドの北の街インパネスからグラスゴーに向かう途中、延々と続くバスの車窓からのネス湖の眺めは、幸いにして晴天、風なしの条件で素晴らしい自然の対話ができ、現地



ガイドさんの日本語での説明に耳を傾けながら、地球の裏側を旅行し遙かな過去からの言い伝えをぼんやり見聞きしていると、喧騒な毎日を通り日常から離れてなぜ自分がここにいるのか不思議な思いに更けていくようでした。

(まさゆき倶楽部会員 横山 卓)

前略

先日木野様よりご紹介していただきまして、一度お会いしたいと思っていたやさきでした。今回の旅行の件で少しばかり手紙で申し上げます。

石原様を初めとしまして澤田様ともう1, 2名の方々でいろいろ考えられたと機内でお伺いいたしました。

音楽旅行は大学時代からの夢で初めて実現されまして喜んでおります。五ツ星ホテルに一度は泊まりたいという願いが通じまして私の泊まった部屋にモジリアニの絵画が4点かけてありその雰囲気と豪華さには流石に五ツ星の貫禄は充分でございましたし夕食のビ―フステーキのフルコースも満足でございました。

四ツ星ホテルの中では初めてのエンジンバラのマクドナルド・ロックスバラホテルは北欧の家具で有名なシンプルで素材の美しさ、木の暖かさを感じ上品な雰囲気での底より安らぎを感じスコットランド初めての好印象を与えてくれました。ロンドンまでのホテルはどれも街の便利さと買物にも散策にもわかりやすく行動上によか

ったと感じられました。ただ時間的に13日間の間中ゆつくりできないのんびり感がもう少しあったらと思いましたが。英国のお料理の件で日本にいる時まずいの定評がありますが19年前に主人と主人の友



人7名でイギリス旅行の経験がありその折にいただいた食事はどこでいただきましたも舌づつみをつつおいしさでしたのでまずいという日本人評は人さままでございませぬ。今回の旅行中二度ほど鮭、鱒料理はおいしく細長いじゃが芋も

毎回出てまいりどこでいただいてもおいしいものでしたが、全部おいしいとは限りませんでした。ツアーならではの旅のおかげでいけない所見られない場所にゆけました喜びは大きいもので一生わすれられないよき思い出となることでしょう。私、個人的なことですがひざが変形性関節症の為に外国旅行は実現出来ないと思っておりますが痛みを我慢してヨタヨタ歩きをして皆様方の中でついてゆきました事は運もよかったですとは思いますが。

これからの人生を旅行好きですのでたびたびいきたいとは存じますが今回の旅行での自分の体調の事を感じいい反省になり将来の人生計画のねり直しをするいい機会に感謝いたします。まさゆき倶楽部は毎年旅行を実行してないらしいとの事毎日のトレーニングと心の持ち方をよく考えて音楽祭、演奏会、ツアー旅行に大いに参加を希望いたします。

十分な感想というべきものではございませぬでしたが、一端に絞って書きました。これからもよろしくお願い申し上げます。お手伝いなど申しつけくださいませ。

ご自愛くださいませ。
十月七日 かしこ
伊藤元子様
(まさゆき倶楽部会員 川田和代)

アラントハウスでの誕生日

文章の依頼を受け、文書を私が書かねばならない微妙な弱さを承知



で、承諾いたしました。それ、それも、それは、それなり、に、センスがあるの？ うまいことかけるのか？ 疑いは心至なのです。もちろん文章を書くなどと、夢にも思いませんので！！あとになって想うたび、後悔しきりなのです。
私は、新潟生まれの新潟育ちで、新潟県人は「美人は多いが積極性

がない」と、地域でも言われています。

その人たちに混じって、育ったのですから、まずにやにやとして、なんとない笑い方で、現在まで過ごしてまいりました。

さて、出発にあたって、パスポートの期限が切れるほど、旅行していない私は話をきいて、こんなうれしいチャンスが、まわってきたのかと。

何ヶ月前から心わくわく、いつの間、その時がきたのです。

旅先の清んだ青空、雄大な山々、緑の牧場大勢の人と共に聴いた音楽会、歴史の街、空にそびえたつ塔、美しい館、人々が、それを保っていること。実に人間の英知を見たようです。私は参加者皆様と一緒に、同様の体験をしておりますが、私、ちよつとちがう体験をしています。

その心情を綴ることといたしましう。

それはアラントンハウスでのこと、突然「ミチコ」と呼んでいる。呼ばれてもどなたかと、キヨロキヨロ、「自分には関係ない」と勝手に言い訳をしていた。なぜなら21日が誕生日なのですから。まだ先のこと、また「ミチコ」と呼ん

でいるのです。

そう言えば入場時、「こちらでは名を呼び抱擁する習慣がある」ときかされていました。これが、そういうことだったのかと。「アッ」私だと。立って我にかえったとき思うのでは、遅いのです。今70才になっても家にこもり、一日中行動、発言する機会も無く、無口になったせいであるのでは……。

なにより、自分が指名されていると、つゆ知らないのですから。立ってみると火のついた幾本かのローソクが、大きいケーキのう

えに、たてであるケーキが目の前に置かれた、火を消すのです。ホホを膨らませるが、緊張で息がない。反対にすい込んでしまう。はっと気がつくなどと、いうことなく、胸がドキドキ、ローソクを消すことができない。息を吹きかけられない、懸命に吹いているが消えない。

会場全員が大笑い、2回目もです。3回目に残っているローソクの火を、消したのでしよう。だれがなんと言っても、気がつかなかったのですから。

あとになって、あの場のことを想うたび、「しまった」ときげんでみても、発声しない私のセンスに、

後悔している現在です。

私の失敗も、ケーキのおいしさと大勢の方々の「おめでとう」の祝福に帳消しに、なっていた」と私は思っています。

その上、音楽会の前夜祭、地方のしきたりに初まり、本場より楽しい演奏をきき、段差なく、参加者全員が、心を一つにし、喜びあふれただろうと、うかがわれ、感謝の中の誕生日でした。こんな私ですが、人生に二度と経験のできない、誕生日でもあり、旅でもありました。

皆様の暖かいお心遣いにつつまれた、旅でございました。

いつも想いだして、これからの生活の糧にしていくつもりでございます。

(まさゆき倶楽部会員 松本美智子)

韓国レポート

8/11~15、木野雅之と私達門下生を含め七人は韓国で行われた第5回ユーラシアミュージックフェスティバルに参加しました。フェスティバルは各々の選んだ教授による個人レッスン、毎日催される教授たちのコンサートなど盛りだくさんな内容でした。着いた

初日はあいにくの天気でしたが、夜のコンサートでは木野先生が演奏され素晴らしい旅の幕開けとなりました。2日目からは個人レッ



スンが始まりました。この日はさらに木野先生による肩当てなしの奏法についてのレクチャーがあり、韓国の指導者からは「肩当てなしでどうビブラートをかけるのか」などの質問がとびました。肩当てなしでの奏法はとも興味深かったようです。4日目には各教授に推薦された人達によるコンクールが行われ、そこでは木野門下生の

加藤菜々子さんが見事に3位を受賞されました。加藤さんはその夜のコンサートにも出演しました。5、6日目にはレッスンも終わり、時間に余裕ができたので各々が買い物や観光も楽しむことができました。この時に木野先生と一緒に景福宮(キョンボックン)へ行きました。大都市ソウルの中にある広大な王宮はソウルの大きさを更に感じさせるものでした。

私自身講習会中、木野先生の他に若林暢先生、ヤン・スンシク先生のレッスンを受け普段気がつかないことなどを確認でき自分にとってとてもプラスになったと思います。またこのような講習会では他の人のレッスンを聴講できると言う良さがあります。私は韓国語は分からないので日本人の生徒のレッスンを聴講しましたが、またそこでも自分にも繋がるようなことが多くあり、とても勉強になりました。

最後に門下生をご引率され小さなトラブルなどにも全て対処して下さいました木野先生に感謝申し上げます。(伊藤裕人)

ドイツ兄妹共演

2003年にミッテンヴァルトレーベルで録音して以来、機会があることにヨーロッパでも演奏してきた貴志康一の作品。今年「生誕100周年」ということでゆかりの地ドイツでの演奏会が叶った。国際交流基金の助成と日本大使館、日独センターの協力を得てベルリンとケルンで実現した

ものだが、さすが文化に感心の高いドイツは、案内が出て2日で満席になったそうで、この一生に一度聴けるかどうかの貴志の曲を楽しみにしていたようだ。会場には貴志の写真や年表をパネルで展示してあり、生け花も添えられてとてもいい雰囲気だった。かつて自分が活躍した土地で100年後に自作が再演される気分はどんなものだろう・・・舞台上の貴志のポートレートより、



まるで本人が舞い降りてきて聴いているようで、会場は感動的な時間が満ちていた。

プロログ

ラムは貴志の師であったヒンデミットのソナタで始まったのだが、この一見別ものに聞こえる作品の中に、貴志が影響を受けたであろうと思える箇所、例えばメロディラインの置き方とか構成とか、無数にあり、兄と2人で「このカップリングは実にいいよねえ」とマニアックに感心しあった。後半はメンデルスゾーンのソナタと小品。生誕200周年で今年兄が方々で弾きまくっているソナタは華があり歌心がある。それにしてはピツタリだと思ふ。それにしては普段ラテン民族に囲まれている私には、ゲルマンの空気はとて新鮮で、文字通り「本場の演奏会」を体験できた。

演奏会以外では地図を片手にバスや電車に乗ってベルリンの街を散歩した。壁が崩壊して20年目、昔は東に譜面を買いに行つて西にはいるときにチェックを受けたらしく、今は観光客向けに当時を再現してヴィザを発行していて、こういう事はとりあえずやつてしまふ兄は2ユーロで紙切れに判子をいっばいもらつていた。ベルリンには父のいとこ池井清夫妻や、桐朋の同級生、大使館には兄の昔の弟子の親が赴任していたり、ケルン周辺にも友人知人がたくさんいて、まあどこへ行つても再会を楽しむことが出来る。朝から夜中まで美味しいビールで「久しぶり、元気？」を繰り返していた。2011年は日独友好150周年だそう、今度は他の都市でビールと再会と、そして良質の演奏会をしたい。

(ピアニスト 木野 真美)

愛楽共日！
～イヴリー・ギトリスと来日公演 2009～
協奏曲・ソロ・室内楽3公演

●協奏曲
キエフ国立ソルビエニ交響楽団&イヴリー・ギトリス
2009年10月22日(木) 19時
東京文化会館大ホール
出演：イヴリー・ギトリス、キエフ国立ソルビエニ交響楽団 (指揮：ニコライ・ジヤジュエーラ)
曲目：オーレル・チャイコフスキー・プロコフィエフ、ヴァイオリン協奏曲三長調(独奏：イヴリー・ギトリス)、弦楽セレナーデ第1楽章/交響曲第5番(独奏：イヴリー・ギトリス)
S席 9000円 A席 7000円 B席 5000円 C席 3000円

●ソロ
イヴリー・ギトリス ヴァイオリンソナタPr.岩崎淑
2009年11月3日(火・祝) 19:15 開演
東京文化会館大ホール
曲目：【バエストロ】 S.チャイコフスキー
以下の作品群よりギトリスが日本の聴衆に聞きたい曲を選んで演奏。
クラインスラー小品集「愛の喜び」「美しきロスマンソン」
パッハ「ソナタ」 サラサーテ「ソナタ」
グーテン、ギトリス「田園曲」、モーツァルト「ヴァイオリン・ソナタ」
シューマン「ソナタ」
www.temppolimo.co.jpにて画前発表！
全席指定 7500円
「ギトリスを近くで見たい！」公演プロミテッド・セット券 20000円 (100席のみ、先着順)

●室内楽
「イヴリー・ギトリスと素敵な仲間たち」
送出国の子供たちのためのチャリティコンサート
2009年11月2日(月) 19時
杉並公会堂大ホール
曲目：【室内楽プロコフィエフ】メンデルスゾーン/弦楽八重奏曲(予定)ほか
出演：イヴリー・ギトリス(ヴァイオリン) 木野雅之(ヴァイオリン) / 日本ソルビエニ交響楽団(ソロ・コンサートマスター) 竹澤健雄(ヴァイオリン) / フランソワ・メウズ(ヴァイオリン) / 小川英知香(ヴァイオリン) / アナトラス・ツェル(ヴァイオリン) / 首席奏者(大野かおる(ヴァイオリン) 監屋牙子(ヴァイオリン) ヴァイツェリオ・チェエ(チェエロ) 香月圭祐(チェエロ) 岩崎淑(ピアノ) 他 ※は随時途中
全自由席 5,500円
主催：イヴリー・ギトリス招聘実行委員会
以上三公演のチケットはお申込み・お問い合わせは、
(株) テンポポリム 03-5610-7772へ

「先生は、日本人だけでなく海外のコンサートマスターもたくさん育っています。いろいろな先生と密に付き合っていると思います。ソリストであるが、彼の根底にあるのは、音楽は自由な発想でなければいけないというものがあって、そこ

多くのコンサートマスターを育てる

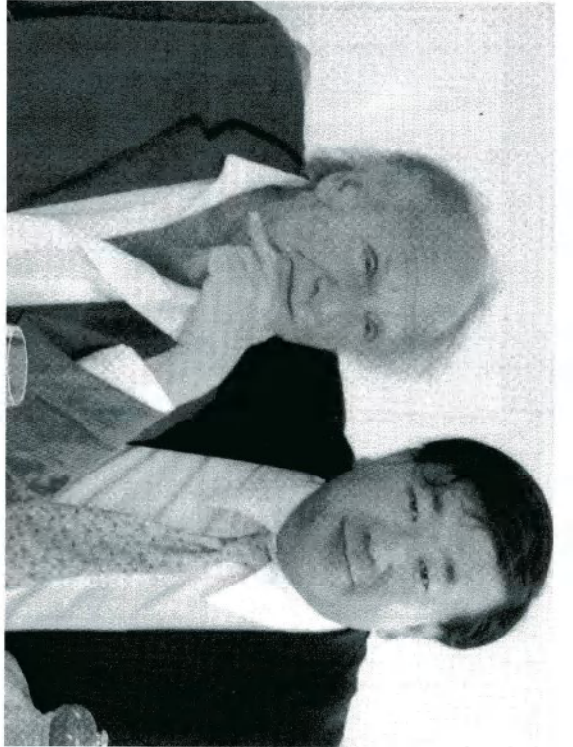
「先生は、日本人だけでなく海外のコンサートマスターもたくさん育っています。いろいろな先生と密に付き合っていると思います。ソリストであるが、彼の根底にあるのは、音楽は自由な発想でなければいけないというものがあって、そこ

「それは音楽家としては、ごく当たり前のことなのでしたが、我々はいやらしい気持ちで起きているので、そういう意味では本心に敬んでいますし、いつまで経っても、自分は先生を想えることができないな」とい

「それは音楽家としては、ごく当たり前のことなのでしたが、我々はいやらしい気持ちで起きているので、そういう意味では本心に敬んでいますし、いつまで経っても、自分は先生を想えることができないな」とい

「それは音楽家としては、ごく当たり前のことなのでしたが、我々はいやらしい気持ちで起きているので、そういう意味では本心に敬んでいますし、いつまで経っても、自分は先生を想えることができないな」とい

「それは音楽家としては、ごく当たり前のことなのでしたが、我々はいやらしい気持ちで起きているので、そういう意味では本心に敬んでいますし、いつまで経っても、自分は先生を想えることができないな」とい



イヴリー・ギトリスさんの秋の来日公演にあたって、ギトリスの愛弟子である木野雅之さんに、ギトリスさんのふだんのお人柄などをうかがった。

巨匠イヴリー・ギトリス急遽今秋来日決定！ 愛弟子の木野雅之さんにギトリスさんのことをうかがう

「先生とは、あなた先生が日本にいら

ますます精神的なギトリス

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら

「先生とは、あなた先生が日本にいら



木野雅之さんのコンピュータの画面にサトル直前にお話を伺う

きも、突然やってきて、「私はチキンのいろいろな人間だから」と言ってきた。先生は、水泳大好きなんです。ホテルにプールがあればすぐ泳がれる。彼はお酒も嗜むんですが、基本的にあまり飲みません。どういっわけか、コーラを大量に飲むんです。あと、チキンスーツにケンヤツツを一瓶かけて食べるんです(笑)。それとボルトンフライと鳥の唐揚げとコンスタンプ。暗いものが好きですね。もの凄くカロリー高そう

これは演奏である以上皆一筋なわけです。コンピュータがすべて規律の中で行なわれるボクシングかという、そもそも音楽というのは自発的なものであって、すべてを統制するものではないと私は思っています。もちろん、ギトリス先生には、音楽に於けるテンポとかリズムというものは根底にベータシクナものがある。その上で、自分なりのものを表現されるわけですね。そういう意味で、オメガストラをやっていることも役に立つことがたくさんあります。演奏というものは、その場にいます。



「ギトリス先生の新しいアルバムは、思っている以上に弾いていただきたいと思えます。」
「とにかく、ギトリス先生には、思っている以上に、是非聴きたい兄弟もいます。まだ中学生版からも聴きにきます。まだ中学生がいないという僕の弟手達が熊本や大分などのコンサート、そしてピアノの演奏が三つの形体のコンサートができていますね。」
「とてもいいプログラムのセプトだと思っています。非常に楽しんでいます。コンチェルトは私も是非聴きたいと思いますし、もちろんリサイタルも外せない。」
先生の活動のもう一つの魅力として、例えばアルケリツチと一緒にな

「ギトリス先生の新たなアルバムが増えています。今までのアルバムの方ももちろんたくさんありますが、まだギトリス先生の演奏を聴いたことのないという僕の弟手達が熊本や大分などのコンサート、そしてピアノの演奏が三つの形体のコンサートができていますね。」

「それは人にもよると思います。私には細かいことを言われたことはあまりないですね。ただ確かに師事して最初の頃は、技術的なことをよく教えていただいた気がします。楽器の鳴らし方、弓の使い方……ごくベータシクナことを教えて下さったですね。」
「ギトリスさんは、日本や日本のお話、子どもに何か特別な思いとかをもっているのか？」
「日本人も日本のことも、とても気に入っているしやいます。日本

人間、聴衆や同士のコミュニケーションでもなるし、その日のその人なりの体調、天気、その場の雰囲気といったものすべてが含まれて、毎回変わるものです。そういう意味でも先生と毎回一緒に演奏するのは凄く楽しみです。演奏家は毎日音楽をすることがエナジーになつていくわけですね。」

「前々回の来日公演でも、お弟子さんとの共演があったり、会場に響きとして呼んだりして、ギトリスさんはやはりい放置されていきませんか、とても楽しかったですね。」
「ギトリス先生はいつも僕に、急にあしる、こうしろとよく言われますからね(笑)。」取材/日

「そうですね。いろいろな方が出演されて楽しみなんですが、特に今回、ヴァイオリンの小山英知香さんが参加してくれます。彼女は僕の桐朋の同級生で、もちろんギトリス先生の弟手さんで、フランスのストラスブールのオメガストラでコンサート、ヴァイオリンの首席奏者をしています。素晴らしいヴァイオリニストです。」

「常になんか一生懸命生きる。一生懸命音楽をすることの大切さにはよく話されました。常に人のために何かをする、音楽を与え続けることの大切さも話させていただきました。」
基本的には先生はとっても人恋しがり屋なんです。寂しがり屋で、しかもやきもち焼きなところもあるんです(笑)。
先生とは、随分たくさん演奏旅行もしましたしね。先生はよく私の演奏会にも来て下さる。ヨーロッパでも日本でも日程が合えば、来て下さるんです。
赤坂でパソコンコンサートをしたと

「常になんか一生懸命生きる。一生懸命音楽をすることの大切さにはよく話されました。常に人のために何かをする、音楽を与え続けることの大切さも話させていただきました。」
「常になんか一生懸命生きる。一生懸命音楽をすることの大切さにはよく話されました。常に人のために何かをする、音楽を与え続けることの大切さも話させていただきました。」

木野雅之スケジュール 2009年10月～2010年3月

ソコ	日時	公演名	場所	共演者	曲目
	10/3(土)17:00	トリオミニストレル	大阪 ザ・フェニックスH	小川剛一郎(Vc)他	ベートーヴェン 大公他
	10/4(日)14:00	トリオミニストレル	東京 文化10	北住淳(Pf)他	バックストリオ他
☆	10/5(月)19:00	フォルテサロンコンサート	東京 聖路加タワー ルーク	見角悠代(Sop)他	
	10/6(火)19:00	中野真帆子 & 木野雅之の弦楽四重奏	東京 紀尾井H	九鬼明子(Vl)他	シューマン ピアノ五重奏曲他
☆	10/11(日)14:00	オーケストラ・フィルハーモニック	長崎 時津カナーリーH	小山大作(Cond)他	チャイコフスキー 協奏曲他
	10/12(月)9:30	ワークショップ&マスタークラス	長崎 旧香港上海銀行長崎支店		
	10/17(土)18:00	日フィル第251回横浜定期	神奈川 横浜みなとみらい	幸田浩子他	ハチャトリアン スパルタカス他
	10/18(日)14:30	日フィル第189回サンデーコンサート	東京 芸劇	アレクサンドル・ラザレフ(Cond)他	チャイコフスキー マンフレッド他
	10/23(金)19:00	日フィル第614回定期	東京 サントリーH	田村響(Pf)他	チャイコフスキー ハムレット 他
	10/24(土)14:00	日フィル第614回定期	東京 サントリーH	田村響(Pf)他	チャイコフスキー ハムレット 他
☆	10/28(水)19:15	横浜シンフォニエッタコンサート	神奈川 青葉台フィリアH	山田和樹(Cond)他	メンデルスゾーン 協奏曲第2番他
☆	10/29(木)19:15	横浜シンフォニエッタコンサート	神奈川 青葉台フィリアH	山田和樹(Cond)他	ブラームス 協奏曲他
☆	10/30(金)19:00	肥後デュオリサイタル	熊本 女性C	藤本史子(Pf)	ヒナステラ パンペアーナ第1番他
☆	11/1(日)18:00	日本農村医学会リサイタル	神奈川 横浜ロイヤルパークホテル	藤本史子(Pf)	サラサーテ チゴイネルワイゼン他
☆	11/2(月)19:00	ギトリスと仲間達	東京 杉並公会堂	竹澤健(Vl)他	メンデルスゾーン 弦楽八重奏曲他
☆	11/7(土)18:00	リサイタル	長野 蓼科華空間	水月恵美子(Pf)	ショパン ノクターン第8番他
	11/12(木)15:00	木野カルテットコンサート	東京 国立新美術館	松実健太(Vla)他	ハイドン 皇帝他
☆	11/14(土)13:30	発表会	神奈川 糺ホール	柴田恵奈(Vl)他	
	11/15(日)14:00	トリオ ミニストレルコンサート	東京 安養寺	北住淳(Pf)他	バックストリオ他
	11/17(火)18:30	日フィル佐野公演	栃木 佐野市文	伊藤寛隆(Cl)他	ラヴェル ボレロ他
	11/18(水)18:30	日フィル佐野公演	栃木 佐野市文	伊藤寛隆(Cl)他	ラヴェル ボレロ他
	11/19(木)14:00	日フィル佐野公演	栃木 佐野市文	伊藤寛隆(Cl)他	ラヴェル ボレロ他
☆	11/21(土)15:00	日フィル荻窪音楽祭	東京 杉並公会堂	小林研一郎(Cond)他	サラサーテ ツィゴイネルワイゼン他
☆	11/22(日)14:00	日フィル第335回名曲コンサート	東京 サントリーH	河村尚子(Pf)他	ベートーヴェン ロマンズ第2番他
	11/23(月)14:00	日フィルどリーむコンサート	東京 府中の森		ベートーヴェン 田園他
	11/28(土)19:00	トリオ ミニストレルコンサート	三重 四日市ムシケ	小川剛一郎他	ドビュッシー ミニストレル他
	12/4(金)19:00	日フィル第616回定期	東京 サントリーH	イルジー・ビエロフラーウ・エク(Cond)	ブルックナー 交響曲第5番
	12/5(土)14:00	日フィル第616回定期	東京 サントリーH	イルジー・ビエロフラーウ・エク(Cond)	ブルックナー 交響曲第5番
☆	12/6(日)14:00	男二人旅リサイタル	大阪 平野Ken's Bar	吉山輝(Pf)	クライスラー 中国の太鼓他
☆	12/6(日)18:30	あなたのおそばでクラシック リサイタル	大阪 壱六庵	吉山輝(Pf)	クライスラー 美しきロスマリナ他
☆	12/7(月)14:00	俺達のヨーロッパ リサイタル	大阪 千中A&Hホール	吉山輝(Pf)	クライスラー 前奏曲とアレグロ他
	12/11(金)19:00	日フィルコンサート	東京 杉並公会堂	西本智実(Cond)	ベートーヴェン 英雄他
	12/12(土)18:30	日フィルコンサート	栃木 宇都宮市民	西本智実(Cond)他	ベートーヴェン 第九他
	12/13(日)16:00	日フィルコンサート	東京 秋川キララH	西本智実(Cond)他	モーツァルト フィガロの結婚他
	12/15(火)19:00	日フィルコンサート	東京 ルネこだいら	長尾春花(Vl)他	モーツァルト 魔笛他
	12/18(金)19:00	日フィル第九公演	東京 芸劇	小林研一郎(Cond)他	バッハ 主よ 人の望みの喜びよ他
	12/19(土)14:30	日フィル第九公演	東京 サントリーH	小林研一郎(Cond)他	バッハ 主よ 人の望みの喜びよ他
	12/20(日)14:30	日フィル第九公演	東京 芸劇	小林研一郎(Cond)他	バッハ 主よ 人の望みの喜びよ他
☆	12/21(月)20:30	浴衣でコンサート	神奈川 箱根仙石原仙郷樓	間杰(中国琵琶)	サラサーテ チゴイネルワイゼン他
	12/23(水)15:00	仙台フィル第九公演	宮城 東京エレクトロン宮城	小林研一郎(Cond)他	ベートーヴェン 第九他
☆	12/24(木)19:00	クリスマスディナーショー	熊本 八代 森のブーケ	久寿木知子(Ob)他	バッハ 音楽の捧げ物他
	12/25(金)19:00	日フィル第九公演	埼玉 大宮ソニック	小林研一郎(Cond)他	バッハ 主よ 人の望みの喜びよ他
	12/26(土)18:00	日フィル第九公演	神奈川 横浜みなとみらい	小林研一郎(Cond)他	バッハ 主よ 人の望みの喜びよ他
	12/27(日)14:30	日フィル第九公演	東京 サントリーH	小林研一郎(Cond)他	バッハ 主よ 人の望みの喜びよ他
☆	12/28(月)18:00	フォルテサロンコンサート	東京 聖路加ルーク	平澤匡朗(Pf)他	
	1/8(金)19:00	日フィル第57回さいたま定期	埼玉 大宮ソニック	小林研一郎(Cond)他	Jシユトラウス II 世 こうもり他
	1/9(土)18:00	日フィル第254回横浜定期	神奈川 横浜みなとみらい	吉野直子(Hp)他	ドヴォルザーク 新世界他
	1/10(日)14:30	日フィル第192回サンデーコンサート	東京 芸劇	矢野玲子(Vl)他	チャイコフスキー 1812年他
	1/11(月)15:00	ラスカニューイヤーズコンサート	神奈川 平塚ラスカH	手塚幸紀(Cond)他	
	1/14(木)14:00	日フィルコンサート	東京 杉並公会堂	宮田大(Vc)他	スメタナ モルダウ 他
	1/15(金)19:00	日フィルニューイヤーズコンサート	東京 杉並公会堂	山下一史(Cond)他	レハール 金と銀他
	1/17(日)14:00	日フィル第336回名曲コンサート	東京 サントリーH	梯剛之(Pf)他	ブラームス 交響曲第1番他
☆	1/21(木)	リサイタル	北海道 滝川たきかわH		
	1/24(日)	日フィルコンサート	福島 郡山市文	森公美子(Sop)他	ガーシュウィン バリのアメリカ人他
	1/25(月)19:30	STBライブ	東京 六本木スイートベイジル	久保田悠太香(Cond)他	サラサーテ カルメン他
☆	1/30(土)12:00	まさゆき倶楽部新年会	東京 柿の木坂華空間	吉山輝(Pf)	
☆	1/31(日)14:00	なにわ兄弟リサイタル	東京 八王子いちょうH	吉山輝(Pf)	ピツェッティンソナタ他
☆	2/13(土)	オーケストラ フィルハーモニック定期	東京 なかのZERO小		ウイニエアフスキ 協奏曲第2番他
☆	2/21(日)14:00	リサイタル	東京 コール田無	石黒雅子(Pf)他	宮城 春の海他
☆	2/24(水)19:00	コンサート	宮城 仙台市青年文化センター		
☆	2/25(木)19:00	コンサート	宮城 仙台市パリンカ		
	2/26(金)19:00	最後のカザルスHリサイタル	東京 カザルスH	坂戸真美(Org)他	バルトーク 無伴奏ソナタ他
	3/6(土)18:00	日フィル第255回横浜定期	神奈川 横浜みなとみらい	渡辺玲子(Vl)他	シベリウス トゥオネラの白鳥他
	3/12(金)19:00	日フィル第618回定期	東京 サントリーH	アレクサンドル・ラザレフ(Cond)他	モーツァルト 大ミサ 他
	3/13(土)14:00	日フィル第618回定期	東京 サントリーH	アレクサンドル・ラザレフ(Cond)他	モーツァルト 大ミサ 他
☆	3/14(日)14:00	リサイタル	東京 日野市安養寺	石黒雅子(Pf)	伊福部 ソナタ他
☆	3/14(日)17:00	リサイタル	東京 日野市安養寺	石黒雅子(Pf)	伊福部 ソナタ他
	3/17(水)19:00	日フィル都民フェス	東京 芸劇	大友直人(Cond)他	ウェーバー オペロン他
	3/19(金)	日フィルコンサート	長野 飯田市文	西本智実(Cond)	シベリウス フィンランディア他
☆	3/20(土)	リサイタル	大阪 畑田家住宅	吉山輝(Pf)	
	3/21(日)15:00	日フィルコンサート	静岡 富士市ロゼシアター	西本智実(Cond)	ショスタコーヴィチ 革命他
	3/22(月)14:30	日フィル第337回名曲	東京 サントリーH	西本智実(Cond)	チャイコフスキー 胡桃割人形他